

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4291500058		
法人名	社会福祉法人 値賀の里		
事業所名	グループホーム 暖家		
所在地	長崎県北松浦郡小値賀町笛吹郷2698-1		
自己評価作成日	平成29年3月1日	評価結果確定日	平成29年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JiyosyoCd=4291500058-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成29年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内は天井が高く開放的で、美しい朝日や青い海、五島の島々が望める風光明媚な環境で暮らすことが出来ます。明るく元気な職員が多く、『笑顔の絶えない楽しく暖かい家』を目指し、『その人らしさを大切に』ご利用者様の支援をさせて頂いています。島という地域柄、ご利用者様、ご家族、職員、地域の方々が知り合いや顔馴染みであることが多く、親しみやすい関係が築きやすい環境です。『おちかの皆さんとふれあい、助け合い、支えあう安心できる暮らし』が送れるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者支援の大きな特徴として、下膳や自室・共有スペースのモップかけ等、残存能力を活かした取組みをしている。また、下肢筋力や心肺機能が低下しないように、歩行する機会を設けているが、ほぼ毎日施設内に特定の音楽をかけている間は、広いフロアを歩く習慣を定着している。音楽を流している間は歩くという、メリハリのある取り組みで、歩行訓練する利用者の参加率が高まった、非常に有効的な取組みと言える。また、施設として外出の頻度が高く、特に散歩や受診、買い物の際に地域の馴染みの住民と会う機会が多い。このように地域資源の活用を通じて、馴染みの人との繋がりが多頻度に確保している。最後に、普段の利用者支援に関する情報収集と共有について、利用者との会話や普段の観察の中から、日々「気づく」感覚を養う努力をしており、得られた情報は職員間で話し合い共有されている。このような姿勢から、支援内容の質の向上と支援方法の統一に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『笑顔の絶えない楽しく暖かい家 その人らしさを大切にゆっくりとした自由な生活 おぢかの皆さんとふれあい、助け合い、支えあう安心できる暮らし』という理念を掲げ、取り組んでいる。	事業所の理念は、開設時に職員皆で決めた文言で、特に最近は笑い声が多く聞こえるようになってきた。職員が新たに入職した際には、理念の説明を丁寧に実施して、理念の実践につなげている。また、理念の浸透に係る全体的な取組みとして、年度末に理念を振り返る機会を設けて、職員からの意見をまとめ、次年度の取組みに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域や学校行事の見学に出掛けたり、暖家主催のクリスマス会に地域の方々も招待し交流するよう努めている。	近隣の学校の運動会への参加、地区対抗駅伝の際の応援等、地域の行事へ参加することに関して、利用者の体調や天候等問題がない限り、積極的にかける姿勢であった。また、お楽しみ会という団体の踊りや歌の披露や、健笑会なる傾聴ボランティアの慰問があったり、中学生の職場体験の受け入れを実施している。このように様々な団体等の慰問を受け入れて、地域との関わりを確保しようとする、積極的な姿勢も確認した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	在宅で介護している家族から相談されることがあり、支援の方法を伝えたり傾聴している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、活動を報告している。クリスマス会や避難訓練に参加して頂き、ご利用者様や施設の様子を実際に見て頂いている。出た意見は職員全員で共有している。	特徴的な取組みとして、年に1回は運営推進会議と避難訓練を、同時に実施するようにしている。施設としては、この場を利用して有事の際の協力体制を構築するように努めている。またこの会議の中で出てきた意見は、職員間で共有するようにしているが、現在、事業所から家族や地域の方への、報告中心型の会議となっている傾向にある。	運営推進会議は定期的には開催しているが、報告中心型の会議となっている。貴重な会議の時間を活かすためにも、地域や家族等へ課題提供をしてもらえるような働きかけを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福祉事務所の所長に運営推進会議に参加して頂き、取り組みを伝えている。役場に出掛けた時には担当と話し、協力関係を築いている。	町担当者と一番接点があるのは、運営推進会議の場面で、少なくとも2ヶ月に1度は顔を合わせることになるので、何か困りごとがあった際は相談しやすい関係にある。また、地区の民生委員が変わる時期は、施設を見学に来てもらう等、可能な限り地域の公的な立場の方との関わりを持つようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に一度、身体拘束・虐待防止委員会を開催し、具体的な事例を挙げて確認を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。法人で身体拘束排除を宣言している。	身体拘束等人権擁護に関する内容を考える機会として、また、職員全員で情報共有する場面として、3ヶ月に1度職員全員参加の身体拘束・虐待防止委員会を開催している。この場では知識を習得したり、皆で考える機会を設けている。ここ最近のテーマは『言葉使い』で、以前に比べると職員は、言葉使いについて意識するようになった。引き続き言葉で利用者を制止しないように、持続的にホーム長が指導にあたっていく。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に一度、身体拘束・虐待防止委員会を開催し、具体的な事例を挙げて確認を行い虐待をしないケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修には参加できていないが、役場と連携し活用を図るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書等を用いて説明し、不安や疑問点を尋ね理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会や運営推進会議で意見や要望を聞いたり、ケアプランの見直し時期に合わせて『意見書』を送付し記入して頂いている。月1回『暖家だより』でご利用者様の様子を伝え、意見や要望を伝えて下さいと呼び掛けている。	法人として年に2回家族会を開催したり、2ヶ月に1回の運営推進会議、ケアプランの見直しの時期の意見書、普段の面会、電話連絡等が主な家族との接点と言える。ほぼ現状の状況に満足されており、意見はほとんどない状況であるが、利用者の家族より、月に1度自宅に戻って、ご飯を一緒に食べる機会を持続していきたいという意見があった。このように、現在やっていることについて、『続けたい』という意思表示も、本人や家族の意見を反映していることと換言できる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や職制会議、雑談の中でも意見や提案を聞くようにしており、管理者はその意見を施設長に伝えている。	職員と接点を持つ場として、特に定期的に個別面談をやっているわけではない。その代わりにホーム長は、普段の会話の中から気になったことは、職員に深く話を聞いたりする等、常に職員の言動にアンテナを張っている。法人として可能な限り勤務シフトに融通を効かせる等、働きやすい環境整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有する資格(介護福祉士、ケアマネジャー等)に応じて手当が付いたり、正職員として雇用している。職員の希望に添ってシフトを組み、地域や学校の行事等への参加やリフレッシュが出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	島外の研修にはなかなか参加出来ていないが、町内で開催される研修や勉強会には積極的に参加し、研修報告で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	『GHおぢかの家』さんや養寿園、社会福祉協議会等の方達と一緒に勉強会を行い、サービスの質の向上の取り組みや、情報交換をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面会し、話を聞いたり施設の様子を伝え、少しでも不安が和らぐよう努めている。入居後は笑顔での声かけを意識して行い、行動や表情の変化を観察しケアに繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面会時や、電話がかかってきた時等に要望や疑問を聞いたり、入居後のご利用者様の様子を伝え不安をなくすことや、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族がどのようなサービスを必要としているのか話を聞き、提供出来る事と出来ないことがあることを説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の出来る範囲で家事を手伝って頂いたり、一緒に食卓を囲んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	『暖家だより』等で個々に近況を報告し、共有している。面会や、ご本人やご家族の希望に応じて帰宅したり、電話を掛け会話することで関わりを持って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩やドライブの途中で自宅周辺を訪れたり、馴染みの理美容院での散髪や商店での買物、墓参りに出掛けられるように支援している。近所の方が面会に来られた際、居室でゆっくり話して頂いたり、町の行事の見学に行き地域の方との交流を図っている。	利用者の馴染みの関係を継続するという視点でいうと、お墓参りや買い物等が掲げられるが、土地柄も含めた特徴として、近所へお買い物に行くと、必ずと言っていいほど知り合いと会ったり、同級生と会ったりするという。このような出会いがあれば話も弾むし、利用者も生き活きとした表情になる。利用者の心身の状況にもよるが、現状において外出することこそが、馴染みの関係を継続する1つの大きな手段となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に家事を手伝って頂いたり、レクや体操に参加して頂くことで交流を図っている。食事の席やソファ、車内の座席は相性を見て考慮している。落ち着かないご利用者様に寄り添っている姿も見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援の事例はないが、サービス利用が終了しても同じ地域の住民として挨拶や声かけを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望を直接尋ねたり、職員やご利用者様との何気ない会話から汲み取るよう努めている。	利用者の思いや意向を把握するために、職員は会話を大切にしている。利用者の言葉や表情、態度、動きを注意深く観察して、「業務日誌」や「介護支援経過」に細かく記載し、職員間で共有している。それを基に職員会議で利用者の視点に立って話し合い、利用者の思いや意向を客観的に把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、在宅のケアマネから生活歴や馴染みの暮らし方、サービス利用の経過等を伺ったり、ショートステイ利用時の様子については養寿園の職員から聞く等し、把握に努めている。職員が顔馴染みであることも多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子を介護支援経過やチェック表に記録し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様それぞれに担当を付け、モニタリングを行っている。カンファレンスにご本人やご家族は同席されていないが、意見書に記入して頂いたり面会時に話を聞き、介護計画を作成している。	利用者の思いと家族の要望を「意見書」(介護計画見直し時期に合わせて家族に郵送し、家族の思いを汲み取る書面)や面会時に聞き取り、それを基に、処遇会議で目標やサービス内容を全職員で検討して介護計画を作成している。サービス内容に沿って、今日はどのような支援をしたかを毎日「介護支援経過」に記入している。担当職員を中心にモニタリングを行い、実施状況や今後の方向性を全職員で検討して次の介護計画に繋いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月2回の会議や、個人記録、各チェック表、申し送りノート等を活用し現状の把握と共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	親族の冠婚葬祭に参加できるよう支援。島外の病院を受診する場合、ご家族の同行となっているが状況によっては職員で対応している。日用品の買物代行。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は限られているが、馴染みの関係は築かれており町民の一人として地域に支えられている。ボランティア(歌や踊り、演奏など)を受け入れ交流している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関が一箇所しかないため、入居後も引き続き同じかかりつけ医に診てもらっている。必要に応じて月1回の専門外来を受診。職員が同行し、ご家族に報告するようにしているが、状況によりご家族も一緒に受診して頂いている。	利用者や家族が希望する医療機関に受診できるように支援している。通院は基本的に職員が同行し、バイタル表を基に医師に状況説明を行っている。医療機関が近くにあるため、利用者は歩いて通院する事が多い。受診結果は緊急時は電話で、状況安定時は「暖家だより」で細かく報告している。精神科や泌尿器科等の必要な診療科目の受診も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	暖家には看護師がいない為、発熱など体調が変化した時は直接診療所に連絡し早めに受診している。同法人施設の看護師とは相談が出来る体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は様子を見に行き、医師や看護師から病状や退院の目処について情報を得ている。退院後の注意点などの指示も受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で看取りを行った事例はあるが、体調不良で入院し、そのまま退所となったり、重度化した場合は養寿園に入所する流れになっている。	重度化した場合の施設の方針を、入所時に「重要事項説明書」を基に説明して同意を得ている。状況変化があれば家族と話し合い、方針の統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導でAEDの使用法や心肺蘇生の方法を学んだ。定期的な訓練の実施には至っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	昼夜を想定した防災訓練を年2回実施している。消防署や養寿園と合同で訓練を行い協力体制を築いている。今年度も運営推進会議の際、実施することが出来た。 毎日20時と23時に火の元や戸締りを確認している。	運営推進会議の際に消防署や行政、地域の人と共に連携を図りながら避難訓練を行っている。消防署や参加者からのアドバイスや感想を次の訓練に活かして実施している。同法人の他施設との協力体制も整っている。防火対策として毎日点検を行い、「業務日誌」に記入している。災害に備えて飲料水や食料、カセットコンロ等の備蓄の準備も整っている。	自然災害に向けての防災計画を作成している。今後は、防災計画に沿って手順や連絡体制等の訓練を実施することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令口調や子供に対するような言葉かけにならないよう、ご本人の思いをそのまま受け止め否定しない、丁寧な言葉遣いを心掛けている。	職員全員が参加する「身体拘束・虐待防止委員会」や「職員会議」で、利用者の尊厳やプライバシーに関する言葉かけについて話し合っている。外部の研修会や認知症の勉強会等に参加した職員が「処遇会議」で研修内容を報告する、毎日の支援の中で気になる言葉かけがあれば、その都度ホーム長が注意する等、日常的な確認と改善に向けて施設全体で取り組んでいる。利用者の個人情報事務所で管理し、責任ある取り扱いを徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を言いやすいよう信頼関係を築いている。「～しましょうか？」という言葉かけや、急がず待つ姿勢で自己決定できるように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝の時間、食事の時間など出来る限り一人ひとりのペースに合わせるようにしている。希望に添った外出支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理美容室に出掛けたり、訪問の美容師にカットしてもらう際も好みの髪型を伝えている。着る服を自分で選べる方はご本人に任せ、選ぶのが困難な方は職員がその方らしい物を選ぶように心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬のものや地元で取れた野菜、海産物を献立に取り入れるようにしている。テーブルを外に出したり、お弁当を持って花見に出掛けたり、目の前でお好み焼きを作ったり、楽しんで食事が出来るよう工夫している。ご利用者様には野菜の皮むき、コロッセを丸めるなどの下ごしらえ、テーブルやトレイを拭いたりと言った後片付けなどを手伝って頂いている。	野菜の皮むき等の下ごしらえや食器拭き、下膳など、利用者個々の残存能力を活かしながら支援している。利用者の嗜好を聞き、盛りつけを工夫する、天気の良い日は庭で食事をする、お弁当を持って外出する等、食欲を高めたり、食事への関心を引き出す工夫をしている。栄養バランスを相談しながら全職員で献立を作成し、郷土料理や地元のおやつを取り入れる等、食事が楽しみなものになるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量や水分摂取量を記録している。起床時に牛乳(またはポカリ)、10時には好みの飲み物(コーヒー・お茶・ポカリ)を提供している。その方にあった量や形状にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけや誘導を行い、清潔を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を付け、パターンの把握に努めている。入居時、尿失禁が多くパットと紙パンツで対応していた方が失禁がなくなりパットと布パンツで過ごせるようになった。	「排泄チェック表・睡眠パターン表」で生活パターンを把握している。利用者の動きや様子をよく観察して排泄のタイミングを職員間で検討し、共有する事で支援方法を統一している。声かけ等で職員が利用者に頻繁に関わり、会話する機会を多く持つ事も排泄の自立支援に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に水分補給(牛乳)をししたり、1日の水分摂取量が1000cc以上になるよう、こまめに提供している。昼食前に全員で歩行訓練や体操を実施し便秘予防に努めている。医師に相談し下剤での調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	回数や時間帯は決まっているが、少しでも気持ちよく入浴して頂けるよう入浴剤を変えたり、ゆず湯にして会話などコミュニケーションを取っている。羞恥心に配慮し、背中側に立ったり、少し離れたところから見守るようにしている。	利用者の習慣や希望(温度、入浴時間等)を会話の中で把握して個別の入浴支援を行っている。状況によっては見守りや声かけで入浴できる利用者もいる。脱衣室、浴室に暖房を設置し、利用者の身体的負担を軽減している。入浴中は職員との会話が弾み、くつろいだ気分で入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具は自宅から持ち込んで頂き、使い慣れたものを使用している。昼間も自由に休んで頂いているが、昼夜逆転しないようゲームやレク参加の声かけも行っている。夜間の室温や明るさを調整し、快適に眠れるよう支援している。眠れない時は付き添って会話したり、温かい飲み物やお菓子を勧めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルし、種類や用法・用量を確認出来るようにしている。薬の追加や変更、臨時薬が処方された時は申し送りノートに記入し、周知を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御位牌を持って来られた方が毎朝お供えが出来るよう支援している。新聞を購読したり、日課だった墓参りや好きなお菓子を買って出掛けている。家事を手伝って頂くことで役割を持って生活できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添って買物や墓参りに出掛けたりドライブ、散歩を行っている。自宅や子供宅に外出、外泊している。	天気の良い日は海を眺めに庭に出る、散歩や買物、墓参りに行く事で地域住民との繋がりを保ちながら日常的に外出している。家族の希望で自宅で家族と昼食を食べる、外泊をする、利用者の要望でドライブ時に自宅周辺に立ち寄る等、一人ひとりが外出を楽しめるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から預かったお金は事務所で保管しているが、数名の方は少額を所持し買物に出掛けた際ご自身で支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に子供や兄弟に電話し、会話されている。年賀状のやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁にクリスマスや正月、ひな祭りなどの季節の飾り付けをしたり、行事や日常の様子を写真に取り掲示している。 玄関先や花壇に花を植え、季節を感じて頂けるよう工夫している。 ホールや居室、浴室が快適な温度になるよう調整している。	天井が高く、大きな窓からは暖かい日差しが溢れ、季節の花を玄関や庭に植えてゆったりとした和みの空間を作っている。職員と一緒に作った季節の飾り、行事の写真を掲示して、利用者同士が話しをするきっかけを作っている。各居室入り口に表札をかけ、貼り紙で説明する事で、利用者が戸惑わないように工夫している。室内の温度や湿度を調整して居心地の良い空間を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールは天井が高く開放的な造りになっており、ソファや椅子に思い思いに座られている。トランプやカルタを自発的に始められ楽しんでいる様子が見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や寝具、TV、御位牌などを持ち込んだり、家族の写真を飾ったりされ、それぞれの居室が違った雰囲気になっている。	居室は十分な広さが確保され、各部屋に洗面やトイレを設置している。居室から海が見え、家族の写真や仏壇等、馴染みの物を置いている。居室は、利用者が自ら進んでモップやホウキで掃き掃除をし、お茶やご飯を仏壇に置く等、残存能力を活かしながら、居心地よく安心して過ごせる環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの居室に表札をつけたり、トイレに張り紙をしたり分かる工夫をしている。S字フックを使用し洗濯物が干しやすいよう高さを調節している。		